

オオキトンボ

Sympetrum uniforme

兵庫県：B

環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

種の概要

腹長30～35mm、後翅長32～39mm程度。体色は鮮やかな橙黄色で、ほぼ無斑のアカネ属。翅は全体が薄い橙黄色。羽化した成虫は羽化地を大きく離れ、山林に移動すると言われている。秋になると平地から丘陵地の開放的で岸辺に露出面があり、周囲に草地を伴う池沼に集まり産卵活動を行う。幼虫は抽水植物の根際や沈積した植物質の陰などに潜んでいる。成虫は7月～11月に見られる。



写真提供：青木典司

国内分布

本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、姫路市、明石市、相生市、加古川市、三木市、高砂市、小野市、加西市、加東市、たつの市、多可町、稲美町

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
		○	○		○

特記事項

最近では県内各地で秋季にため池の水落がなされ産卵環境が現出する池が多くなり、成虫発見場所が増加傾向にある。県内の現状だけを見るとせいぜい要注目種であるが、全国的に見ると愛媛と兵庫だけが数多く見られる県であって、県内の個体群は学術的重要性・希少性が非常に高い。兵庫県はため池の数が多く、広い範囲を移動して産卵環境を探すという本種の生活史戦略が危険分散につながっており、本種個体群が安定した状態に置かれていると考えられる。ただ平地の明るい池を好む本種の生息するため池にメガソーラーが設置された例が複数あり、今後が懸念される。全国的に見た兵庫県の個体群の貴重性を考えて、ランクはBにとどめておく。

保護上の留意点

池の一部にメガソーラーが設置された場合でも、秋に水を落とすと、その影響が緩和される。